

都市再生整備計画 事後評価シート
折尾地区

平成28年2月

福岡県北九州市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	折尾地区			面積	950ha					
交付期間	平成24年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	2,400百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
			基幹事業	道路：折尾13号線、堀川町10号線、折尾南北線、折尾東西線、折尾中間線、折尾堀川町線、JR筑豊本線側道2号線外 公園：(仮称)光明二丁目公園、(仮称)西折尾町児童公園1号 河川：金山川統合河川環境整備事業 高質空間形成施設：折尾60号線外										
	提案事業		地域創造支援事業：土地区画整理事業、既存建築物の保全活用 事業活用調査、まちづくり整備計画作成 まちづくり活動推進事業、まちづくり推進活動支援											
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
			基幹事業	道路：JR筑豊本線側道2号線外 公園：(仮称)西折尾町児童公園1号 河川：金山川統合河川環境整備事業 高質空間形成施設：折尾60号線外		交付期間内での実施が見込まないため、事業着手時期を延伸するため。		指標、数値目標への影響は少ないため、指標及び数値目標は据え置く。						
新たに追加した事業		基幹事業			高質空間形成施設：安全で快適な歩行空間の創出を図るため。 既存建築物活用事業：バリアフリー化や老朽化対策等の大規模改修を行うこと で、安全性や利便性等の機能を向上させ、地域の自主活動の促進を図るため。		指標、数値目標への影響は少ないため、指標及び数値目標は据え置く。							
		提案事業												
交付期間の変更		当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
		変更	-											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	自動車の平均旅行速度	km/h	19	H23	27	H27	30	○	あり	折尾中間線の供用開始などにより、駅へのアクセシビリティが向上し、自動車の平均旅行速度の向上に寄与した。			
	指標2	緊急車両進入困難区域	%	100	H22	40	H27	37.6	○	あり	折尾土地区画整理事業などの進捗により、老朽家屋の移転が進み、地区内の特定消防区域(火災危険度の高い区域)の指定が一部解除され、防災上の課題が改善されている。			
	指標3	街なかにおける居住人口	人	24,689	H22	24,950	H27	24,728	△	あり	市の人口が減少傾向の中で、駅周辺の道路の整備や金山川河川空間の整備などによって、居住環境が向上し、住宅・マンション等の建設が進んだことなどによって、街なかにおける居住人口は第2期事業の初年度より増加した。ただし、街なかの特定地区における一世帯人員の減少などにより目標まで達成することができなかった。	平成28年5月		
指標4	イベント参加者数	人	2,950	H22	2,950	H27	4,784	○	あり	地元のまちづくり団体等と連携して、駅周辺や事業用地を活用したイベントを実施したことにより、イベント参加者の増加し、まちのにぎわいづくりに貢献した。	平成28年4月			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	折尾駅1km圏における居住人口		15,398	H22			15,515			住宅等の新設に加え、周辺道路の整備や公園、金山川河川空間の整備などによって、居住環境が向上し、折尾駅1km圏における居住人口が増加した。	平成28年5月		
その他の数値指標2														
4)定性的な効果発現状況	平成18年4月、「折尾地区総合整備事業」を契機に、地域住民等(自治区会・商業組合等)で構成するまちづくり団体「おりお未来21協議会」が設立された。本市では、平成20年6月に協議会が策定した「折尾まちづくりビジョン」を尊重し、地域住民と連携しながら折尾地区のまちづくりを推進しており、持続的なまちづくり体制の構築が進んでいる。また、「折尾地区総合整備事業」に関するPRや、情報誌等による幅広い周知などによる取組みにより、地域住民の事業に対する理解や協力につながっている。事業の進捗状況等を掲載した情報誌を発行し、地区内の住宅にポスティング及び区画整理事業の仮移転した関係者等に郵送して広く周知することで、事業に対する理解が進んだ。則松市民センターの月平均の利用者が、整備前の3,056人から整備後は3,411人に増加した。													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況						今後の対応方針等					
	モニタリング		なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた						-			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						-					
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						-					
住民参加プロセス		・商業活性化アンケートの実施、リーフレットの配布 ・感謝イベント「ありがとう折尾駅舎」の開催 ・ランチマップの作成 ・新折尾駅前広場の検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた						●				
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						今後も地域住民・まちづくり団体と連携しながら、必要に応じて実施していく。						
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
持続的なまちづくり体制の構築		まちづくり団体運営支援		都市再生整備計画に記載し、実施できた						●				
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						まちづくり団体の運営等について、まちづくりのパートナーとして引き続き支援していく。						
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

折尾地区(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:折尾地区総合整備事業をはじめ、地区内の居住環境の整備と、住民との協働によるまちづくりを推進し、生活支援拠点に相応しい魅力あるにぎわい空間の形成を図る。 目標1:まちを一体化し、駅へのアクセシビリティを向上させるため、鉄道の連続立体化及び街路・道路等の整備を推進する。 目標2:折尾駅南側の密集市街地の解消を促進し、安全・安心で快適な住環境の形成を図るため、土地区画整理事業等の推進を図る。 目標3:公共用地や高架下の利活用方針、景観づくり、民有地等における商業・住宅開発等の促進など、生活支援拠点にふさわしい魅力ある都市空間の形成を図る。 目標4:工事期間中も、折尾駅周辺におけるにぎわいの継続を図るなど、地域住民との協働によるまちづくりを推進する。	自動車の平均旅行速度	(km/h)	19 H23	27 H27	30 H27
	緊急車両進入困難区域	(%)	100 H22	40 H27	37.6 H27
	街なかにおける居住人口	(人)	24,689 H22	24,950 H27	24,728 H27
	イベント参加者数	(人)	2,950 H22	2,950 H27	4,784 H27



折尾中間線の整備



折尾土地区画整理事業



則松市民センター改修

■基幹事業 道路
【折尾13号線】

■基幹事業 道路(街路事業)
【折尾堀川町線】

■基幹事業 道路
【堀川町10号線】

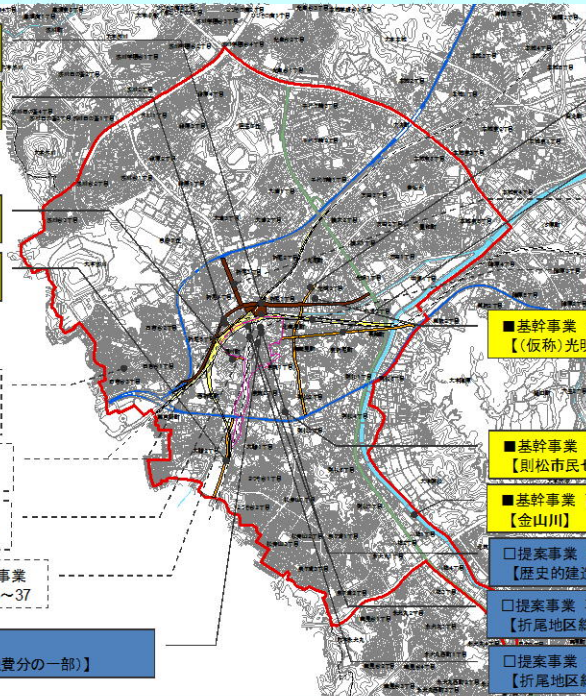
■基幹事業 道路(街路事業)
【折尾中間線】

○関連事業 街路事業
折尾青葉台線(乙丸折尾線)
H16~34

○関連事業 街路事業
折尾駅周辺連続立体交差事業
H16~34

○関連事業 折尾土地区画整理事業
(市単独費分の一部を除く) H18~37

□提案事業 地域創造支援事業
【折尾土地区画整理事業(市単独費分の一部)】



■基幹事業 道路(街路事業)
【折尾南北線】

■基幹事業 道路(街路事業)
【折尾東西線】

■基幹事業 公園
【(仮称)光明二丁目公園】

■基幹事業 既存建造物活用事業
【則松市民センター】

■基幹事業 高質空間形成施設
【金山川】

□提案事業 地域創造支援事業
【歴史的建造物の保全活用】

□提案事業 事業活用調査
【折尾地区総合整備事業・まちづくり整備計画作成】

□提案事業 まちづくり活動推進事業
【折尾地区総合整備事業・まちづくり推進活動支援】



折尾南北線の整備



金山川遊歩道整備



まちづくり整備計画



まちづくり推進活動支援

凡例	
■	基幹事業
□	提案事業
○	関連事業

まちの課題の変化

■平成32年度の駅開業に向けて、駅周辺の交通ネットワークの形成を促進し、各方面からのアクセシビリティを向上させる必要がある。また、連続立体交差事業の進捗に伴う幹線道路の通行止めの迂回路としても整備する必要がある。

■区画整理地区内の残された東側地区及び鉄道跡地地区について、老朽住宅除却とともに、基盤整備を行い、安全・安心で快適な住環境の形成を図ることが必要である。

■持続可能でコンパクトなまちづくりが求められる中、公園や河川空間の整備によって、更なる街の魅力が高めることが必要である。

■事業の進捗によって、新しいまちが目に見えるようになってきたことにより、住民のまちづくりに対する期待や意識が高まっており、継続して住民との協働によるまちづくりを進める必要がある。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

■鉄道によるまちの分断を解消し、新しく生まれ変わる地域の交通結節拠点である駅へのアクセシビリティの向上を図るため、鉄道の連続立体化及び街路・道路等の整備を推進する。

■持続可能でコンパクトなまちの形成及び生活支援拠点にふさわしい魅力ある都市空間の形成を図るため、安全・安心で快適な住環境の形成、民有地等における商業・住宅開発等を促進する。

■魅力ある賑わい空間の形成を図るため、工事期間中のにぎわいの継続や新たなまちづくりを、地域住民との協働により推進する。